



三浦半島支部だより

平成22年3月10日発行

第 9 号

発行者： 社団法人宮陵会（ 神奈川大学校友会 ）三浦半島支部 企画・広報委員会

事務局： 鎌倉市津西1-31-15 TEL0467-32-4957

学校法人神奈川大学、長期優先債 務の格付け「AA/安定的」を取得

学校法人神奈川大学は平成22年1月21日、株式会社日本格付研究所（JCR）から長期優先債務の格付けAA（ダブルAフラット）を取得し、また格付けの見直しは「安定的」とされたと発表した。このなかで、神奈川大学の歴史や伝統、卒業生の社会での活躍、健全な財務体質、学園の将来に向けた指針として策定した「学校法人神奈川大学将来構想」の内容や取り組みが評価されたものと考え、今後、将来構想の実現を目指し、一層の教育、研究の質的充実、社会貢献に努めて参りたいとコメントした。格付け取得は法人の財務状況について外部評価をうけ、情報公開を進める狙いがあるという。

格付け「AA」は20段階（最高位は信用力が最も高いAAA。最低位のDは債務不履行状態。AA～Bにはプラス、マイナスの表示を付加し細かく分類）に区分されている格付け順位の上から3番目に位置する。

株式会社日本格付研究所は格付事由として、「神奈川県下の学生獲得競争は激化しているが、学生の出身地域が比較的多様な点は今後の安定的な志願者獲得に寄与するものとみられる。帰属収支の学納金依存度は8割近く収入多様化が課題だが、人件費を抑制するなど比較的高水準の帰属収支差額比率を維持している。引き続き良好な財務基盤は維持されよう。建学の精神を軸にカリキュラムを差別化、充実化していくこと、そうした教育改革の結果として輩出する人材を通じ社会からの評価を高めしていくことが重要な課題である」としている。

〔 解 説 〕

格付けとは、民間企業や国などが発行する債券の信用リスクで利払いや元本回収が不可能になるリスク、倒産のリスクを評価する。格付けが高いと倒産リスクが低いから期待収益率（利回り）は低い。多種多様な債券の

格付けは機関投資家にとっても難しいため、格付けを投資家に代わって専門的に提供するのが格付け機関。わが国では、金融庁長官から指定を受けた指定格付け機関として、日本格付研究所（JCR）、格付投資情報センター（R&I）、スタンダード・アンド・プアーズ（S&P）、ムーディーズ・インバスターズ・サービスなどがある。

近年、18歳人口の減少から受験生を巡る大学間の競争が激化し、定員割れから学生募集を停止したり、収支・財務内容の悪化から経営破綻し廃校となる大学も出始め学校経営は冬の時代を迎えている。なお格付けでは学生募集力の戦略、収支・財務状況、ガバナンスや組織運営状況などが重視されるようである。学校法人として国内で初めて格付けを取得したのは法政大学で7年前にR&IからAAマイナスを取得した。現在、国・公立、私立を含め33校が格付けを取得しており、格付けを取得する大学は今後増える見通し。格付け評価は、定期的に見直しされることから法人役員、教職員一体となり学園発展のために引き続きご尽力をお願いしたい。

第4回支部新年会に46名が参加

～第1部講演会中田信哉教授が講演～

宮陵会三浦半島支部の第4回新年会が1月30日（土）午前11時から、京浜急行横須賀中央駅そばのセントラルホテル5階宴会場で開かれ、46名が参加した。

冒頭、古川勝彦支部長は「発足4年目を迎えた。歩こう会、ゴルフ会、テニス会も活躍している。ホームページもできた。是非見て欲しい。今後とも会員増に協力してご支援いただきたい」と挨拶した。

内藤正久さん（昭和51年機械卒）の司会で始まった新年会の第1部は、神大経済学部中田信哉教授の「宅配便の新展開～宅配便のアジア進出～」と題した講演会が行われた。教授は「これからの日本経済に明るいものが

あるとすれば、中国や東南アジアを対象としたサービス産業の輸出だ。その代表がヤマト運輸の宅急便だ」と述べ、ヤマト運輸の発展の歴史や少子高齢化時代の日本経済の先行きについて説明した。

午後零時45分から鈴木和夫さん(昭和46年法律卒)の司会で始まった第2部の懇親会は、忙しいなかご出席いただいた伊藤文保神奈川大学理事長が乾杯の音頭をとられた。同じホテルの別会場で新年会に出席されていた羽田慎司神奈川県副知事(昭和46年法律卒)も挨拶に見えられた。新入会員の自己紹介や活動するサークル案内などもあり、また美味しい諏訪の地酒「真澄」の影響もあってか、いい酔い心地になった会員同士があちこちで話を弾ませた。

小池邦夫さん(昭和38年機械卒)の中締めの挨拶後、恒例の校歌と応援歌を清水英樹さん(昭和56年法律卒)の音頭で大合唱し、大学へのエールを送って新年会の幕を閉じた。

(三浦地区幹事 原 柳作)



乾杯の音頭を取られた伊藤理事長



懇親会終了後全員で記念撮影

中田信哉教授講演要旨



新年だから景気の良い話をしようと考えてきた。今景気の良いのは宅配便業界だ。1976年以降、ヤマトや佐川、西濃など民間の宅配便業者は成長を続けている。ニューズウィーク誌だったかで米国の識者が「日本の将来はサービスである。そのサービスを求める市場が日本の隣にある」と述べている。日本の隣とは中国、東南アジア、インドだ。

サービスとはアニメであり、フィギュア、日本食。これらは日本文化といえるもので、長い間に積み重ねられてきた。中国、台湾、韓国が技術をもって追いつけるものではない。これから日本の基幹になるのは①環境技術②水管理③鉄道の3つ。日本の新幹線技術はイギリスや台湾で導入されたが、ドイツやフランスの技術で始めた韓国でさえ、今では日本の新幹線技術を使っている。こういえば外国がポイントになるが、実はそうではなく経済の基本は内需である。経済の指標にGDP(わが国は年500兆円弱)がある。GDPの要素を大雑把に言えば①公共投資②企業の設備投資③個人消費支出④輸出入のプラス、マイナスの4つだ。GDPの60%以上を占めるのが個人消費支出で日本経済の大部分を占める。古い政治家の中には、日本のGDPは個人消費支出が少なく、公共投資や企業の設備投資が大きいと思っている人がいるが、実際はそうではない。従って経済の立て直しは個人消費支出を伸ばすしかない。では内需をどう伸ばすか。私の考えは年金を税金でカバーすることだ。例えば65歳になったら誰でも無条件で10万円を支給する。そのための原資に現在の消費税5%に年金支給分5%を積む。また他の福祉分2%を積み、消費税を12%程度にする。これでも北欧や韓国に比べれば安い。先進国のなかでも日本の消費税は異常なほど安い。将来が保証されれば安心だから、人々はお金を使うようになる。

消費が増えれば日本経済は良くなる。将来の安心を提示することでしか消費は増えない。日本に今明るいものがあるとすれば輸出だ。では外国市場に

～次頁に続く～

何を輸出するか。雑貨の生産は中国、ベトナムに移ってしまい、日本には輸出する雑貨はほとんど無い。日本が輸出するものといえば、余程付加価値の高いものしか無い。それはものづくりではなく、外国市場を相手にしたサービスやソフトウェアだ。その代表が宅配便。日本で開発した宅配便システムをそのまま輸出する。日本の宅配便システムは複雑で難しいから、外国で上手く作ることはできない。ヤマトや佐川もこのシステムをもって本格的に外国に出るといことなので、日本の宅配便の発達を振り返ってみたい。

日本の大きな変化は1970年代。1971年ファーストフード1号店のマクドナルドが銀座三越に誕生。74年セブンイレブン1号店が江東区の酒屋さんでオープン。76年ヤマトの宅急便が誕生。この3つに共通するのはコンビニエンスということ。つまり利便性、安直性、お手軽性だ。

それまで物を多く売り、多彩なメニューを出し、高い物、安い物ありで購入時の選択幅が広がった。高度成長時代でもあり、戦後の貧しい生活の影響もあって量的充足を考える時代であった。しかし70年代に入り質的充実を求めるものへと変わった。日本経済はこの時期から大きく変わったのではないか。これは「物からサービスへ」「有経済から無経済へ」という消費者動向の変化に対応している。家計消費の60%以上が無経済に使われている。例えば携帯電話の場合、ハードに費やすお金よりインターネット代、1モード代、通信回線代などソフトにかかる。現在の生活では物に対する支出が減り、サービスに対する支出が増えている。このサービスが経済の特徴になり、大きなポイントを占める。米国は80年代に既にこのような経済となった。

大きく成長したサービス業にあって、最初に開業したセブンイレブン、ヤマト（個人宅配便）、マクドナルドはそれぞれの業界でダントツの1番だ。このダントツ1番がそれぞれ外国に出て行くことになる。そこで、そのうちの1つヤマトの発展を見てみよう。

ヤマトは1976年、宅急便を開発。以降一貫して成長してきた。その成長のポイントは、常に新しいサービスを開発し続けたことにある。その代表的

～次に続く

なものをいくつか挙げると、まず取次店制度を作り、しかも取次店の荷物そのものの配達も請け負うようにした。TVCMも初めて行い、自動仕分け機の導入やオンラインのネット化を果たす。当時、評判になったのは均一料金、到着日指定、簡易包装の3つのサービスだった。1983年、スキー、ゴルフの宅急便の開発。コレクトサービスやタイムサービスなども始め、これらを組み合わせた多彩なサービスも開発した。（例えば地方の特産品を生産する企業・個人が商品さえあれば、ヤマトのサービス網を利用して全国どこにでも直接配達できるようになった。→ヤマトロジスティックサービス）こうした新しいビジネスモデルを持ったヤマトが中国に進出するようになった。

最後にこれからの日本を展望すると、今世紀末には人口が6千万人に減少するといわれる。経済は個人消費が60%を占めるので、人口が減少するとどうなるか。市場は小さくなり、労働市場も縮小する。そうなると生産の国内回帰は可能か、国内投資の可能性などについても考えなくてはならない。

現在の民主党政権はマクロ経済政策を出していないので早く提示して欲しい。小泉政権では「低負担、低福祉、安い政府」の方向を出していた。これはこれで一つの考えである。鳩山政権は「高福祉、高い政府」というが高負担とは言い出せないでいる。高福祉、低負担なんてありえないから「高福祉、高負担、高い政府」を狙っても構わない。ただ高負担（消費税）を言い出せない現状などを考えると、今年1年は経済が劇的に回復するとは考えられない。

(完)

山岳部世界七大陸最高峰を制覇

～ 2月28日横浜で記念祝賀会を開催 ～

世界七大陸最高峰を踏破する「セブンサミッツ」に挑戦していた神奈川大学山岳部は昨年12月21日に南極大陸にあるピンソン・マシフ（4892m）登頂に成功し、大学山岳部としては世界初の快挙を達成した。

計画から10年、部員ゼロからのスタートであったが、山岳部OBの献身的な努力により現在は部員が8人まで

増えたといわれる。今回の計画に参加されたのはOBの落合正治隊長（60歳）、田中康典さん（57歳）、横須賀市在住の宮守健太さん（27歳）と現役部員の鈴木隆志さん（20歳）の4人。宮守さんは七峰すべての頂上に立った。昨年6月に開催した支部総会に出席し挨拶した宮守さんは、前回のエベレストでは登頂成功後、意識を失い気づいた時は仲間のテントに収容されていたこと、落合隊長は凍傷で両手の指を失ったことなど過酷な体験を語られていたことを思い出す。

2月28日、セブンサミッツ達成をお祝いする記念祝賀会が、横浜市西区のホテルで行われ、登山隊隊員18人をはじめ、山岳部OBら150人が参加した。

神大学長に中島三千男氏を再任



神奈川大学は2月5日、任期満了に伴う学長選挙で現職の中島三千男氏（65歳）が再選され、理事会で承認されたと発表した。任期は4月1日から3年間。

（プロフィール）

中島三千男氏は福岡県北九州市出身。スポーツが得意で小学校では野球、中学・高校（小倉高）ではバスケットに熱中。東京オリンピックでは九州地区の強化指定選手に選ばれた。京都大学卒業後、同大学大学院文学研究科に進学し博士課程単位取得後退学。奈良大学勤務後、30年前に神奈川大学に赴任。外国語学部長、副学長、理事などを歴任した。専門は「日本近現代思想史」で平成19年4月から現職。趣味は水泳で週1回、1時間くらい休まず泳ぐ。健康のためタバコはやめ、酒も飲まない。10年前にはヒマラヤ（アイランド・ピーク6, 170m）を登頂し神大の「KU旗」を掲げた冒険家でもある。

神大に誇りをもって欲しいからと「神大の歴史」を授業にも取り入れた。学生に対しては、「若者には無限の可能性がある。いつまでも夢・希望・目標を持って欲しい。醒めた大人になってほしくない」と期待する。「教育より研究重視という悪しき慣習を変えていきたい」と目指す方向は明確だ。今後の神大の未来は、中島学長の双肩にかかっている。

（中島学長のプロフィールは、タウンニュース神奈川区

版から転載させていただきました）

2010 アスリート進学情報

今春、硬式野球部、陸上競技部への入部予定者が発表されましたのでお知らせいたします。

〔硬式野球部〕神奈川新聞に入学予定者掲載済

神奈川六大学1部秋季リーグで完全優勝を果たした神大には、夏の甲子園に初出場した横浜隼人高の山口諒治外野手の他、桐光学園高の主将笠間充捕手、横浜創学館高の主力であった亀山拓也内野手、向上高のエース神翔太投手ら県内の好選手が加入する。また2009年夏の甲子園に出た福岡・九州国際大学付属高主将の小林知弘内野手、福島壮人選手。埼玉・聖望学園高主将を務めた子安史浩内野手（小林、子安両選手は2009年、日本学生野球協会から表彰を受けた）が入部する。なお、その他の選手は下記のとおりです。

（2010年入学者 16名）

嶋田健人（東京・桜美林）齋藤充卓（兵庫・明石商）小荒田大樹（鹿児島・鹿児島実業）竹生和也（埼玉・富士見）中村光希（石川・遊学館）山本浩輝（神奈川・藤嶺藤沢）池田純（山形・日大山形）塚本多輝（東京・東海大菅生）森岡俊輔（広島・広陵）

〔陸上競技部・長距離〕

今年1月2日、3日に開催された第86回東京箱根間往復大学駅伝競走には、予選会で敗退したために出場できなかったが、関東学連選抜チーム選手に森本卓司選手（人科・4年）と染谷和則選手（人科・4年）が選出された。1区で走った森本選手は積極的にレースを引っ張り、先頭集団を走ったが六郷橋で明大選手が仕掛け、ペースをあげるとついていけなかった。結果はトップから33秒差の4位で鶴見中継所に入った。染谷選手は戸塚⇒鶴見の9区に出場し、区間7位と力走、陸上競技生活最後のレースを終えた。両選手の健闘を讃えたい。森本選手は卒業後、実業団の名門中国電力に入社し陸上競技生活を続ける。

(2010年入学者12名) 月刊陸上競技2月号掲載

上倉拓也(静岡・藤枝明誠) 岡部貴洋(福岡・大牟田)
 片山大貴(静岡・藤枝明誠) 蒲生悠太(徳島・美馬商)
 小林周平(岡山・倉敷商) 伊達葉平(神奈川・三浦学苑)
 坂本翔太(千葉・市柏) 鈴木啓太(静岡・藤枝明誠)
 堂本尚吾(広島・広島皆実) 二宮健人(香川・津田)
 東 瑞樹(熊本・九州学院) 宮永雄大(茨城・藤代)

[陸上競技部OBの活躍]

第54回全日本実業団駅伝競走が2010年元旦に上州路(群馬県)の7区間で行われた。全日本実業団駅伝には、地区予選を勝ち抜いた37チームが出場し神大OB選手9名が上州路を駆け抜けた。

出場選手は次のとおりです。()内は所属チーム名。

吉村尚吾(トヨタ自動車) 下里和義(小森コーポレーション) 森脇佑紀(JFEスチール) 小村章吾(JFEスチール) 勝間信弥(佐川急便) 坂本純一(佐川急便) 佐藤健太(東京電力) 島田健一郎(東京電力) 村上歩(プレス工業)

支部同好会通信

テニス同好会会員募集

多少心得のある者、まったくの初心者などで発足して以来、毎月1回着実に回を重ねて年を越しました。一同まだまだ上達すると思っています。下記の要領でやっています。これからがシーズン、是非ご参加ください。

テニスでもやってみようかという人、大歓迎です。問い合わせは、小池邦夫さん(電話046-875-5079)まで。

記

日時: 毎月(原則)第3月曜日 11時~16時頃まで
 場所: (茅ヶ崎) 湘南ローンテニスクラブ

ビジターフィー: 2,000円(シャワー、食堂あり)
 テニスシューズのみご用意下さい。ラケット無料で貸します。

歩こう会からのお知らせ

4月3日(土)重要文化財の仏像拝観と大楠山の春を愛でるというテーマで開催いたします。今回のコースは横須賀市西部の京急「浄楽寺」バス停に集合し、10時出発。浄楽寺見学後、大楠山山頂で昼食、衣笠城址まで歩くコースです。詳細は、別紙の開催要領をごらんください。なお参加申込みは幹事の若林秀明さん(電話090-3220-1479)まで。

第11回ゴルフコンペ奥野氏が優勝



第11回オープンコンペに23名が参加

3月5日(金)葉山国際カンツリー倶楽部で第11回宮陵会三浦半島支部オープンゴルフコンペが6組23名最大の参加で行われた。雨の予報が変わり、曇りから晴れて汗ばむ陽気となった。スタート前に古川支部長から挨拶があり、1月に亡くなった田中久夫氏のご冥福をお祈りした。

今回、アウト・イン9時29分、3組を初めて同時スタートさせた。優勝は、本人が一番驚いた奥野氏で初めて。準優勝はバズグロ80の三縄氏、3位は塚田キャプテン。ドラコンは9番塚田氏、15番吉村氏、ニアピン1番阿部氏、17番植田先生であった。初参加は原氏紹介の根本氏(かなしん広告)、古川支部長紹介の皆川氏(横浜銀行OB)、鈴木氏紹介の中山氏(テフコ青森)であった。

パーティでは、植田名誉教授から駅伝チームの状況、秋田宮陵会副会長から、受験者総数が前年並みであった、就職状況は厳しいなど締め挨拶があった。

(世話人 中川 六郎)

三浦半島支部釣同好会発足

釣部を発足して2月6日に塩塚先輩と2人で第1回の釣り大会を行いました。釣果については塩塚先輩の報告がホームページに掲載されていますので是非ご覧下さい。私はここ20年近く真鯛を追い求めておりますが、なかなか会心の結果を出すことができません。前は釣部の発足を宣言した直後で、必死にやっただにも係わらず、空しく時間が過ぎ、やっと終了15分前に型が出たという状況で、胸を撫で下ろした次第です。

さて自己満足の釣りはひとまずおいて置くことにし、皆さんで楽しめる釣りにしたいと考えています。鱈、キス、イナダ、その時期にたくさん釣れる魚をターゲットとして、船上で皆さんと楽しく語らうことを目的としたいと考えています。三浦半島は三方海に囲まれています。「今日は東に明日は西、その次は南」と皆さんの近くの船宿で大爆釣といきたいものです。

(世話人 清水 英樹)

会員からの短信



紙切りと切り絵

小池 邦夫



高校生の頃だったか、親戚のおばあさんに「あんだ、小さいころ紙切りをやったけれど、今できる？」ときかれた。やってみるとどうやらできた。

ところで数年前、町の鎮守の秋祭りに「江戸紙切り」の芸人が来た。小さな鋏で花魁を切って見せたが、

大きな簪から切り始めて着物の裾の花模様まで切り上げた。余興が終わったあと彼と雑談したが、紙切りは子供の頃からやっていたとのことだった。寄席の紙切りの芸人達も馬の絵などを30頭も切って繰り返し練習するそうだ。

その後、私も興に乗ると指で箸袋などを干切って動物の姿を作って見せたり、機会があると子供会などで簡単な切り絵を手ほどきしたり、お年寄りの集まりで皆さんの干支を切って差し上げたりしている。ところで私はもともと絵を描くのが好きだったので、暇になったら油絵でもやってみようと思っていた。しかし、あるとき文房具屋で「カッティングシート」という材料を見つけた。この材料は色の種類が豊富で200色近く、緑でも約15色ある。もともと商店の売出しなどに、これを使って大きな字を切り出して使うらしい。切ってから台紙をはがせば接着剤が付いているので貼ることができる。材質もプラスチックなので鮮やかに見える。少量でも切り売りをしてくれる。紙切りで手馴れている鋏で色々な図形に切って貼ったりしているうち、これを使って絵を作ってみようと思いついた。手始めに空色の背景に椿や白木蓮などの花を切って貼ってみると、光沢のある材質なので、出来上がりが鮮明になった。



夏萩や
蓬春描く
天女の衣

そのうち、趣味のひとつに始めていた俳句を絵にしてみようと考えた。絵になりそうな句を選び、動植物も風景も果ては人物像まで試みた。出来上がりが気にいらないければ何度でも切り直せばよいのが利点だ。しかし、細かく表現しようとしても絵や写真にはかなわないので、図形のようなつもりで簡潔な表現を心がけている。色彩は配色を考慮し、色見本であらかじめ使いたい色を決めてから取りかかる。最近では俳句仲間の句に絵を添えて、あつかましくも年賀代わりにしている。

切り絵の方も子供会などでは、三角形の図形を切ってヨットの絵を作るとか、黄色の地に黒の縞を何本も貼り付けて最後に魚の形に切って縞鯛を作るといった方法で遊んでもらっている。また、お年寄りの会では花の図形等を大量に切って用意のうえ、各人それぞれのセンスで貼って楽しんでもらっている。

このように紙切りから始まった余興の楽しみが切り絵に発展して、「切った。貼った」の世界を皆さんにも楽

しんでいただくようになった。

(昭和38年工学部機械工学科卒業)

中国・深圳事情

奥野 晶洋



宮陵会の皆様始めまして、私は昭和42年度工経卒の奥野と申します。学生時代は軽音楽部に所属し、グリーンアイランダースというハワイアンバンドの活動で学生時代を楽しく過ごしてきました。当時は経済状況も右肩上がりです。バンドの仕事が忙しく、横浜のクラブやキャバレー、ダンスホールで

バンドのアルバイトに明け暮れ、授業の方は殆ど置いてきぼり状態。その崇りで卒業にえらい苦勞をしたことが今でも忘れられません。楽あれば苦ありを体験的に教えられた学生時代でした。

さて、話は変わりますが私は仕事で、2002年から2007年の5年間を中国の深圳に駐在していました。その時の駐在の様子などをみなさまに御紹介したいと思います。

深圳(シンセン)は、香港の北側に位置し一本の細い川を挟んだ対岸にあります。中国最初の経済特区、僅か25年間で一漁村から人口1400万人の巨大都市に発展しました。香港・マカオについて所得の高い豊かな都市で、中国の中でも発展著しい代表的な都市です。香港から国境を越え深圳に入ってくるとまず驚かされるのは高層ビル群です。40から50階のビルが数え切れないほど林立しています。それは日本の新宿を大きくしたような感じです。ここ羅湖区(ローフー)は深圳きってのショッピング、ビジネスの中心地です。このエリアにオフィスを構える日本企業も多く、日本人駐在員もたくさん住んでいます。

私も羅湖にマンションを借りて住み、会社へは社用車で一時間かけて隣の市まで毎日通勤していました。当時はまだ我が社の周辺は生活環境が悪く日本人の生活に適さなかったからです。

(深圳の特徴)

深圳は急激に発展したため、移民の多いところで

2/3以上が中国各地から引き寄せられた移民で、新住証というのを取得して住んでるわけはその数1200万人以上といわれています。公的汚職・所得不平等・社会的な治安の悪さなど中国内でもワースト都市としても有名な所です。たとえ多くの問題があっても若者達が憧れる魅力のある都市なのかも知れません。街なかの人々になんとなくギラギラしたのを感じます。上海の街とは全く違った印象を受けました。

(気 候)

ここは亜熱帯に属し、夏は30℃以上で湿度が高いのでとても暑く、この辺りでは海水浴は夜に行くのが一般的です。昼間行くと日焼けがきつくと火傷をすると聞いて、なるほどと納得しました。冬は過ごしやすく10℃以下になるのは年に10回程度、この時期はゴルフのベストシーズンです。6月には市の中心にあるライチ公園はライチの赤い実でいっぱいになります。美味しさは日本では味わえません。このほか市のメイン道路がマンゴーの並木道になっていたり、南国の果物が豊富で安く買えるのもこの楽しみの一つです。

(ゴルフ事情)

深圳にはおよそ40箇所ほどのゴルフ場があり、ワールドカップが行われたミッションヒルズもこの中のひとつです。そのほとんどは市の中心から車で一時間以内で日本よりずっと便利です。土地がいくらでもある中国ですから、フェアウェーも広く距離の長いフラットなコースがこの特徴。費用は土日でホテルからの送迎込みで12,000円から15,000円程度で中国の他の物価と比較すると高いなと思います。そのためかお客は殆どが日本人、韓国人、台湾人など外国人です。

キャディーは全員20歳前後で、よほど忙しく無い限り4人のプレーで4人付きます。グリーンオンするとラインを読み、方向を合わせてボールを置いてくれます。ただし指示通り打ってもその結果は自己責任。新米キャディーでも、したり顔でラインを読んでいるのでそこは要注意。

(生 活)

外国生活の中で最も大事なことは毎日の食事だと思います。私は朝は自炊、昼は会社の食堂、夜は外食、おおむね毎日このパターンで暮らしていました。夕食は沢山ある日本料理店の中で、味と値段のバランスでいつも行く店は決まった2~3店だけ。中国人が作る日本料理なので、多少味が変なのは仕方ないにしても日本酒の偽物には参りました。ちなみにクラブで飲むウイスキーも全部偽物で、体を壊さなければと心配しながら飲んでいま

した。中国では偽物が多いのは有名ですが、深圳は特に酷く、時計、バック、衣類、ゴルフ道具等その殆どが偽物、お金でさえ偽札が流通しています。また物の値段も交渉事で表示の半額ぐらいいは当たり前、いくらで買えばいいのか？。とにかく買い物は難しいけど値切る楽しさもまた一面です。日常生活で困ったことは、ここの治安の悪さです。引ったくり、スリ、交通マナーの悪さからの交通事故などが日常茶飯事、私もスリに3回遭いそのうち実害が1回、駐在者は殆ど何らかの被害を受けています。特に旧正月前は、一稼ぎしないと故郷に帰れないという輩が闊歩しているため特に注意を要する時季です。お陰で路上を歩く時の身のこなしなどスキがなくなつたように思います。

このように書くと中国人は悪い人ばかりに思えますが、そんなことはありません。わが社の700人のワーカーの多くが給金の半分以上を故郷に仕送りしている頑張り屋の善良な若者達です。お陰さまで、私も無事に駐在を終え、今では出張で行く深圳を懐かしく楽しんでいます。

皆さん、もし香港に行かれることがありましたら、是非深圳まで足を伸ばして見てください。そしてエキサイティングな深圳を体感してください。ただしスリとニセモノには充分なご注意を。

(昭和42年工学部工業経営学科卒業)

懐かしきワープロ世代

岸本 光瑞



会報に何か書けとの、砂川さんからの指令。ならばと私とワープロの関わりを書くことにした。

砂川さんとは昭和42年の春、経営学の藤田忠先生のゼミで一緒になった。そのゼミに入ってまず驚いたのは、数学が嫌いで高校3年生の時には数学を捨てて文系の貿易学科に進み、大学1、2年の時も数学に全く縁を持たない学生生活を送っていたのが一変。ゼミではまず数学に始まったのである。当時、P、F、ドラッカーの数理経済学と

かMIS [経営情報システム(management information systems)]とかが最先端の経済科学として囃され、その一環として数学やらコンピューター言語としてコボルとかフォートランと云う言語が飛び交っていたことを思い出す。

その頃、砂川さんはアルバイトで日立戸塚のコンピューター工場に行っていた。両端に孔のあいた連続紙にコンピューターで打ち出した細かい数字で描かれたモナリザの絵の模様に関心したのが、最初にコンピューターを意識した始めであった。卒業して15年ほどたった頃の昭和56年頃にワープロが売り出され、翌年リコーリポート200型を購入した。100万円を超える金額だったと思う。3.5インチ2HDフロッピー1枚を差し替える方式で、文字も字体も単語登録が500文字限定という機械であったが、それまで使用していた和文タイプをリタイアさせるに十分なもので、仕事で付き合いのあった街の印刷屋さんが、私たちの仕事はどうなっていくのでしょうかと、ため息をついていたのが印象に残っている。

2年も経たないうちに後継機種のリポート300に。機能は格段に進歩、値段は半分以下。さらに平成の始めにそのまた後継機種、TS80を使い始めた。文書作成に違和感が無く、現在のパソコンより文書作成が楽に行える使いやすい機械であった。同じ頃に必要に迫られて初めてパソコンを購入した。

MS-DOSで動くPC9802でドットプリンター込みで80万円くらいだったと記憶している。非常に限定的な使い方しか出来なかった。

ワープロのリポートTSは二フティサーブのパソコン通信、表作成計算、特定箇所への指定印刷が出来るなど平成10年くらいまで事務の中心をなしていたため、業務用ワープロ生産中止で部品補給も無くなると云われても、使い勝手からPCへの移行になかなか踏み切れなかった。

あれから10年以上たった今日でも、今のパソコンに比べて当時のワープロの使い勝手の良さを感じることがある。文書作成などは多彩に比べものにならないくらい、劇的な変化を遂げたが、それが良くなったとは一概に言えないようだ。少なくとも私の感覚では、昔の方が判りやすい部分が多い。

PCの世界は、理解できないところになっている。アナログ人間のせいかな、理解できない世界には怖さが先立っている。年のせいかなと思うこの頃である。

(昭和44年経済学部貿易学科卒業)

28センチ榴弾砲実物大模型製作

砂川 正夫

「大本営では、東京湾の観音崎砲台のベトンを割り、砲を解体して旅順に送った。」これは司馬遼太郎作「坂の上の雲」の一説であるが、日露戦争で乃木將軍率いる第三軍が、数回の総攻撃を仕掛けてもステッセル將軍が守る旅順要塞を攻め落とせないでいるとき、大本営は海岸砲として日本の主要海岸に備え付けられてあった二十八センチ榴弾砲を徹去して旅順方面に運んだという記述がある。その移送された内4門が観音崎と司馬遼太郎は記しているが、横須賀市内の米が浜砲台、箱崎砲台のものであると思われる陸軍大臣の指令文書がある。「鎮海湾、大連湾、對馬防禦用トシテ撤去ノコロ中途ニシテ旅順攻撃ニ転用セラル」「予テ鎮海湾に備附スル為メ箱崎砲台より撤去シタル二十八センチ榴弾砲六門ハ作戦ノ必要上大連湾ニ運送船……」と陸軍大臣の許可を得て旅順に送る手配をしていた。

観音崎は江戸時代より外敵防備の要塞であり、砲台が築かれたのは明治13(1880)年に西洋近代築城技術に基づき観音崎第一、第二砲台の建設が始まった。その後様々な種類の大砲が設置された中で二十八センチ榴弾砲は第三砲台(現海の見晴らし台)におかれた。現在海の見晴らし台跡地は、砲台石組を樹木で覆われているが跡地の面影が充分残存している。

榴弾砲は曲射砲の炸裂弾で、直径28センチ(サンチはフランス語)、長さ75センチの砲弾が飛距離7、8キロ、観音崎公園対岸の房総半島7キロにとどく威力である。明治16年イタリアの榴弾砲に準拠してグレゴリーニ鑄鉄を用い、大阪砲兵工廠で試作された。第1号は同17年竣工し、信夫山において試験射撃を行った。19年7月には東京湾観音崎第三砲台に据付、20年3月下旬命中精度等を試験したところ、所要の目的を達することが出来た。その後本体の研究開発がなされ、明治25年には海岸砲として正式に制定された。

今回、観音崎公園ボランティアグループが、実物大模型を製作した意図は、大砲なるものが戦争を奨励するがごとくに思われるが、上記の歴史的由来があること、また3年前より月2回の観音崎公園水の広場の剪定等造園構造物製作活動の中で兼六園の風情のある松の雪吊りを

製作していたが、マンネリ化して他の構造物を模索していた時、NHKのスペシャルドラマ「坂の上の雲」が放映されるということになったことによる。放送開始の11月29日に合わせ製作することになり、図面等は防衛省歴史研究所、アジア歴史資料センターの資料を参考に、実物は、栃木県の博物館に調査に行き、多少オリジナルはあるが、製作日数15日、延べ62人で実物に沿った木製レプリカを製作した。

設置場所は観音崎自然博物館の横、展望園地。この地は本来カノン砲(加農砲)という15ミリの水平射砲が置かれていたが見学利便性と維持管理を考慮に入れて当地に設置。除幕式は11月29日午前10時開会し、郷土史家、神奈川県および報道関係臨席のもと行い、その後NHK他テレビ局の放映により公園内の名所となり、見学者の増加が見られた。展示期間は3ヵ年、ご来場をお待ちしております。

(昭和44年経済学部経済学科卒業)

事務局からのお知らせ

三浦半島支部新会員のご紹介

寺西 厚さん(昭和63年法律・横須賀市久里浜)が会員になりました。皆様よろしく願いいたします。

お く や み

次の方々がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

竹内 茂さん(昭和16年機械・横須賀市公郷町)

新年会案内状を出したところ平成21年11月14日死去されたところのご連絡をいただきました。

田中 久夫さん(昭和47年法律・横須賀市久比里)
平成22年1月20日死去。神大レスリング部OB会事務局長。三浦半島支部会計監査を3年10ヶ月にわたり担当されました。

鈴木 芳徳さん(神奈川大学名誉教授・横浜市港北区)

平成22年2月23日死去。鈴木先生は平成20年6月14日に開催した神奈川大学創立80周年記念文化講演会に講師として出席され、「日本の大学の現状と将来像」というテーマで講演をされました。

会費納入のお願いについて

平成22年度年会費のお振込をお願いします。該当者には郵便局の「払込取扱票」を同封しました。振込手数料は支部が負担いたします。

◎郵便振替受入口座00290-5-95815

宮陵会三浦半島支部

◎横浜銀行口座 久里浜支店

普通預金 1747984

宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部

◎会費は年間3千円、4年前納は1万円です。

支部年会費納入状況

(平成22年2月末日現在)

(敬称略)

〔平成22年3月末まで納入者〕

- (鎌倉) 小永井 潔 篠田 拓郎 川瀬 元夫
飯田 秀男 小澤 光 岩崎 英昭
石井 和行 若林 秀明 北野 紘一
古川 勝彦 山岸 一輔
- (逗子) 岸本 光瑞 松本 育雄 千葉 毅一
- (葉山) 中村 進 岩澤 正之 中川 六郎
石渡 俊一 周藤 亜矢子
- (横須賀) 山内 元式 森 茂 鈴木 昭利
八嶋 政臣 島 久喜雄 萩原 孝
沖 丞 石井 一男 角谷 彰
落 勝廣 石渡 敏夫 南雲 忠男
菊池 武 村田 龍也 結城 康雄
長谷川征勝 浅山 正義 金井 昌孝
熊澤 勝喜 市川 国男 寺脇 敏彦
早川 勝繁 福島 康臣 清水 洋一
吉田 武男 相原 充 砂川 正夫
森下 守久 鈴木 稔 野村 晴男
嶋田 晃 塩塚 定雄 舟崎 学志
島崎 和久 青山 隆一 内藤 正久

- 鈴木 三郎 鈴木 伸夫 石田 泰教
松井 一郎 清水 英樹 川口 好孝
新藤 優 星山 正範 工藤 真也
鈴木 康介 星野由希子 島崎 和久

(三浦) 原 柳作 石渡 大輔 石渡 大湖

〔平成23年3月末まで納入者〕

(鎌倉) 矢澤 基一 (逗子) 長澤 良成

(横須賀) 大倉 国光 鳥海 洋義 松岡 和行

〔平成24年3月末まで納入者〕

(鎌倉) 井口 淳 (逗子) 石渡 浩

(葉山) 小池 邦夫

(横須賀) 塚田 尚 奥野 晶洋 久保田 宣彦

鈴木 和夫 名取 美佐男 箕輪 義夫

堀越 昌樹 二井 美恵子

(三浦) 天白 世里子

〔平成25年3月末まで納入者〕

(横須賀) 上原 章道 蛭子 英二 植山 修治

武井 利徳 永野 茂 轟田 俊秀

長島 保雄 石渡 卓 三縄 義和

〔平成26年3月末まで納入者〕

(横須賀) 中山 廣男

会費納入者97名

編集後記

本年6月、支部設立5周年の節目の年を迎える。同好会活動も活発で、卒業生の交流の輪も広がりにある。しかしながら若い卒業生の加入が少ないことが気がかり。会員の高齢化も懸念される。卒業生5千人超を擁する支部で会員105名では物足りないと感じるのは私だけだろうか。早急に対策を講じなくてはならない。

卒業生が同窓会に無関心なのは、当支部だけでなく、全国共通だ。大学や同窓会に魅力がなければ見向きもされない。このことについては大学当局、宮陵会本部、支部が本気になって取り組む必要がある。今年は支部役員改選期、支部活動を活性化させる意欲のある方々が次々と登場されることを期待している。

(S)